

AIの種類

簡単まとめガイド



AIの種類

AI（人工知能）は機能や学習方法によって大きく2つに分類されます。

識別系AI（Discriminative AI）



データの中に「境界線」を引くことを学習し、データの分類、予測、認識を通じて答えを出す。

活用例 迷惑メールフィルタ、スマートフォンの顔認証、商品の需要予測、自動運転の画像認識

特徴

「これは猫か犬か？」「不正利用か否か？」のように、「データ同士の違いを識別することに特化しており、正解のあるタスクやパターンの識別に強い。

生成系AI（Generative AI）



データからパターンを学習し、新しいコンテンツ（文章、画像、プログラミング・コード、音楽）を生み出す。

活用例 資料作成、アイデア出し、翻訳、要約

特徴

複数のモダリティから学習データの特徴を捉え、高精度な推論や生成（画像生成、動画理解、対話など）を可能にする。

● LLM（大規模言語モデル）

大量のテキストデータを学習し、文脈に合わせて次に来る言葉を確率的に予測することで、人間のような文章を生成する。

● マルチモーダル

複数のモダリティ（テキスト、音声、画像、動画、センサーデータ）やデータ形式を組み合わせることで分析し、アウトプットの信頼性を高める。

目的別 生成AIの使い分けと選び方

生成AIは「何を作りたいか」「どの環境で使うか」によって最適なツールが異なります。

目的	おすすめツール（選び方のポイント）
文章作成・要約（テキスト生成）	● ChatGPT アイデア出しや論理構成に強い ● Claude 文脈を汲み取った、違和感のない日本語表現が強み ● Gemini Googleドキュメント等との連携が強力
画像生成	● Midjourney 芸術的で高品質な画像の作成に最適 ● DALL-E 3 ChatGPT上で対話しながら修正が可能 ● Adobe Firefly 商用利用に特化し、著作権的にクリーン
情報検索・調査	● Perplexity 複数のソースを提示し、正確なリサーチが可能 ● Copilot Microsoft製品との親和性が高く、検索エンジン(Bing)と連携しているため、最新情報に強い
動画・音声生成	● Sora / Runwa（動画） テキストから高品質な動画を生成（Soraなど） ● Suno（音声） 歌詞とジャンルを指定して作曲

【当資料における免責事項】

本資料は、作成時点（2026年2月）における公開情報を基に作成しております。

AI技術および関連サービスは極めて変化が速く、各ツールの料金体系、プラン内容、提供機能（UI/UX含む）などは、頻繁にアップデートが行われます。

そのため、本資料の閲覧時には情報が古くなっている可能性がございます。当社としても定期的な情報のキャッチアップと資料のアップデートに努めておりますが、あまりに変化のスピードが速いため、すべての変更をリアルタイムに反映することが困難な場合がございます。

そのため実践の際は、あくまで作成時典の参考情報としてご覧いただき、最新の正確な情報は各サービスの公式サイト等でご確認ください。